

日本住を快適空間!

ダンネツ通信

2006.8-9 vol.51

発行：株式会社ダンネツ 〒070-8045 北海道旭川市忠和5条4丁目 63-636 TEL(0166)61-9151・FAX(0166)61-2044

特別企画

通巻 50 号突破記念・ダンネツ太田社長インタビュー

ダンネツと住宅業界の今、そしてこれから

『ダンネツ通信』も創刊から5年が経ち、前号で通巻で50号に到達しました。そこで今回は50号突破を記念して、(株)ダンネツ・太田吉四郎社長にこの5年間のダンネツの取り組みや住宅業界の動き、そして今後の展望などについてお話を伺いました。

エンドユーザーが“断熱”に関心

—『ダンネツ通信』創刊から5年が経ち、今回通巻で50号を超えました。改めて『ダンネツ通信』を創刊した目的について聞かせて下さい。

太田社長 創刊当時、北海道では高断熱・高気密住宅が当たり前となり、ブローイングを含めて住宅の断熱に関する技術も製品市場も成熟した状態でしたが、その5、6年前に営業を開始した関東地域では、北海道の10倍の市場があるにもかかわらず、住宅の断熱化はなかなか普及しませんでした。いくら断熱が地球環境に優しく、快適な住環境を作ることができると言っても、口頭で伝えるのはなかなか難しかったのです。

それならば住宅の断熱に精通している方やハウスメーカー・工務店様の方々の意見を集約・反映したコミュニケーションツールを制作し、知識と情報を共有すれば住宅の断熱化が広まるのではないかと考えました。それが『ダンネツ通信』を創刊したきっかけです。

—『ダンネツ通信』でこれまでどんな成果があったのですか。

太田社長 読んで頂いているハウスメーカー・工務店様へ行くと、断熱について話が膨らむようになり、当社の若い社員も含め断熱の必要性について理解を深めてもらうことができました。関東地域でも徐々に高断熱・高気密の必要性をわかってもらえるようになり、その意味で効果は確実にあ



インタビューに答えるダンネツ・太田社長

りましたね。

—この5年間の住宅業界の動きについては、どのように感じていますか。

太田社長 断熱に限って言えば、道内の住宅市場はかなり成熟し、その必要性も広く認識されています。一方、関東地域ではあまり普及が進まず、断熱すると構造体が腐ってしまうなどの誤解もかなりあります。ただ、エンドユーザーから直接、「どんな断熱材がいいのか教えてほしい」といった問い合わせや相談がくるようになり、情報化が進む中でエンドユーザーも住環境を良くするためにはどうすればいいのか、そして資産価値を高めるにはどうすればいいのかを意識するようになってきました。断熱に対するエンドユーザーの関心が高まってきているのは確かなことです。

一方、住宅業界では市場が縮小する中で“一にも二にもコスト優先、性能は二の次”という考え

方が増えつつあり、価格競争も激しくなってきました。関東地域でも性能優先かコスト優先かの2極分化の傾向が見られます。ただ、コストで売っている会社は他社との競争もあって浮き沈みが激しいのではないかと思います。



関東地域で断熱の必要性はまだ広く認識されていないが、断熱に対する消費者の関心は確実に高まってきている

—この5年間で印象に残っている出来事はありますか。

太田社長 積雪寒冷地では高断熱・高気密化をもっと進めて今以上に環境負荷を少なくすることが避けられなくなってきたことが挙げられます。また、新築住宅はこれからも少なくなっていくと思いますが、そうなると過当競争になっていい家が建たなくなるのではという危機感が業界内で高まってきていることも印象的と言えます。

その中でも、北海道で特に寒さの厳しい旭川においては、リフォームによって環境に優しい住宅ストックを増やすという方向に活路を見いだせると思います。しかし、それには行政や学会の関心を高めることが必要でしょう。北海道には築20年を超えた住宅ストックがかなり多く、これらを環境に優しく、多機能な住宅として蘇らせることは非常に意義のあることです。例えば旭川市や道立の研究機関などを中心に、産学官で旭川を高断熱・高気密化による住宅先進地とするくらいの動きを見せれば、市場は十分開拓できるはず。—この5年間でダンネツとして最も力を入れてきたことは何ですか。

太田社長 もともと当社は断熱工事100%の会社でしたが、住宅市場の縮小や断熱工事の過当競争もあり、安定して事業を行い収益を上げることが難しくなったことから、現在では事業全体のうちブローイングなど断熱工事の比率が3分の2で、残りはダンネツパネルやかんたんベースなどの自社開発商品になっています。特に住宅関連では断熱に関わる商品開発に力を入れてきました。

木造リフォームも積極的に展開

—これから住宅業界はどのようになっていくと思われますか。

太田社長 戸建住宅はリフォーム、一般建築では外断熱が主流になっていくと考えています。いずれもヨーロッパの住宅先進国で取り組まれているゼロエネルギー住宅に向かっていくのではないかと、大きな期待を寄せていますし、それがこれからの“本物の住宅”になっていくと思います。

—ダンネツの今後の展開を聞かせて下さい。

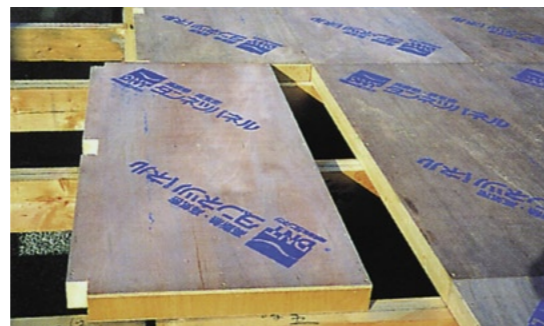
太田社長 断熱工事に関しては、木造住宅のリフォームに特化した事業を徹底的に行っていくと考えています。当社では3年ほど前から5名の技術者による開発プロジェクトを組織として立ち上げ、各種技術や情報を集約しながらいろいろなアイデアを研究していますが、その中で木造住宅のリフォームも研究を進めているところです。

一般建築では湿式外断熱システムのシュトーマーモ・クラシックの普及に力を入れていきたいですね。今年7月から断熱材の製造や、仕上げ材の調色も自社工場で出来るようになったので、どんどん広めていくつもりです。

ブローイングも創業以来25年以上続けてきましたが、関東地域での普及は大きなテーマと言えます。ブローイングなどの断熱工事と木造住宅のリフォーム、シュトーマーモ・クラシックの比率がそれぞれ3分の1ずつになるのが理想です。

—最後に『ダンネツ通信』の読者へメッセージをお願いします。

太田社長 やはり住宅のあるべき姿は欧米の住宅先進地のように、多機能かつ高性能に尽きるでしょう。そのためには住宅に関わる様々な分野のエキスパートを活用することがとても大切になります。次世代に向けた多機能な高性能住宅がエンドユーザーの心に響けば、それは住宅業界全体のパワーになっていくのではないのでしょうか。



ダンネツ自社商品の先駆けでもあるダンネツ床パネル。木造リフォームの分野でも新商品の開発が期待される

ダンネツ第2工場が本格稼働～シュトーマーモ用EPSなど生産～

ダンネツでは今年7月から、旭川市新星町にある第2工場の本格操業を開始しました。ここではドイツ・シュトーマー社の湿式外断熱外装システム「シュトーマーモ・クラシック」のEPS（ビーズ法ポリスチレンフォーム）断熱材の生産と、仕上げ材であるトップコートの調色を行っており、シュトーマーモ・クラシックの市場拡大に大きな役割を果たすこととなります。

シュトーマーモ・クラシックは透湿性のあるEPSを断熱材に使用し、その上にアクリル樹脂100%のベースコートとグラスファイバーメッシュで下地を造り、トップコートで仕上げる三層構成で、クラックの発生を防ぐ高い耐衝撃性と耐亀裂性を有し、容易な施工で外断熱と塗り壁仕上げを実現できるのが大きな特徴です。ダンネツではこのシュトーマーモ・クラシックのより積極的な事業展開を図るため、第2工場に関連設備の設置と建物内外の改修を進めてきました。



旭川市内でも最大級のボイラーを設置

トップコートの調色は国内唯一

第2工場は延床面積2,000㎡の2階建てで、シュトーマーモ・クラシック用EPS断熱材の生産能力は年間10,000㎡。原料のビーズを独自の方法で発泡・成型することによって透湿性を確保します。生産用のボイラーは、旭川にあるボイラーの中でも最大級のもので、EPSを年間200,000㎡生産できるだけの能力があります。

国内で唯一となるトップコートの調色は、ティンティングステーションと呼ばれる専用ス

ースで行われています。外装用だけで800色、内装用なども合わせると1,000色以上用意されているシュトーマーモ・クラシックのカラーを調色し、全国に供給。1日に60～80缶、年間で20,000缶の調色済みトップコートを生産可能です。

なお、調色済みトップコートは1缶あたり8～12㎡分の施工ができます。

このほか、2階ではダンネツ壁パネルやダンネツ根太レスパネル、直方体状のグラスウールを吹き込むキュービックブローエース工法、型枠兼用断熱材のかんたんベース、木造専用の現場発泡ウレタン・エアライトフォームSF-100など主力製品の展示も行っています。

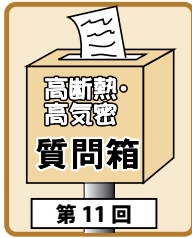
7月1日には太田吉四郎社長を始めとする役員・従業員と取引先企業の担当者らが出席して、安全操業祈願と大型ボイラーへの火入れ式を行いました。挨拶を行った太田社長は「シュトーマーモ・クラシックは新築だけでなく、既存の建物の省エネ化も図ることができる。関係各社とも一致協力して市場を拡大し、この製品を通じて社会貢献できるよう頑張っていきたい」と抱負を語っています。



シュトーマーモ・クラシックのトップコートの調色を行うティンティングステーション



100 cm × 200 cm × 50 cmのEPS断熱材を1時間に10本作ることができる成型機



基礎断熱した床下はカビが出やすい？

Q…基礎断熱した住宅で床下がカビ臭くなったという話を聞きましたが、本当にそうなることがあるのでしょうか？

A…基礎断熱を採用した住宅で、施工中でも床下がカビ臭くなったという話は以前からあることです。これは床下の空気の対流が不十分であることが原因と言われており、床断熱のように基礎に換気口がない基礎断熱では、間仕切り基礎の配置や換気に配慮していないと湿気が滞留してカビが発生しやすい環境になってしまうわけです。

特に1階床面にガラリなどを付けてはいるものの、積極的に床下の空気を対流させる工夫を行っていないと床下の空気があまり対流せず、湿度が上がってカビが発生し、居住者がキッチンのレンジファンを回した時などに床下の空気が室内に流入してカビ臭さに気付くこととなります。

木材にほとんど影響はありませんが、カビが発生しているということは腐朽菌が活動しやすい状態でもあり、居住者も有害物質に過敏な人やアレルギーを持っている人にとっては、健康を損ねる



基礎断熱した床下でカビが発生すると、1階床のガラリを通じてカビ臭い空気が室内に流入する可能性がある

原因になるので、対策を考える必要があります。

対策としては床下空間の空気を対流させて湿度を低く保つことと、床組木材の防腐防蟻処理をしっかり行うことがポイントです。空気が対流しやすい間仕切り基礎の配置を考えるとともに、換気の排気ダクトを1本床下に下ろしておくなど積極的に換気を行うことが必要。床下の湿度が高いと感じたら除湿器を入れるのも一つの手です。床組木材の防腐防蟻処理は基礎断熱の場合、ヒバなど防腐防蟻性の高い樹種を使う例が増えていますが、木材表面の汚れなどにカビや腐朽菌が付く可能性はあるので、工事水が抜け切らない竣工初年度を含めてカビの発生が不安であれば、健康性の高い防腐防蟻薬剤の併用を考えたいものです。

●編●集●後●記●

♣ 8月に入り、北海道もかなり暑い日が続いています。先日、異常気象を題材にした「デイ・アフター・トゥモロー」のDVDを観ましたが、昨今の異常気象を考えると、全くのフィクションではないと思えました。(佐野)

♣ 梅雨がない北海道も、7月半ば過ぎまでは例年になく曇や雨の日が続きました。その後はカラッと晴れた日が続きましたが、地球温暖化の影響で北海道にも梅雨が来たのかと考えずにはられませんでした。(水越)



株式会社ダンネツ

ホームページURL <http://www.dan-netso.co.jp/>
E-mailアドレス info@dan-netso.co.jp

「快適な住まいづくり」はお任せ下さい！

●フローイング工事各種 ●外断熱工事 ●気密工事
●ウレタン吹付工事 ●断熱建材製造販売 ●住宅性能診断

■本 社	〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目63-636	TEL(0166)61-9151 FAX(0166)61-2044
■旭川第一工場	〒071-1248 上川郡鷹栖町8線西2号	TEL(0166)87-4442 FAX(0166)87-4888
■旭川第二工場	〒070-0014 旭川市新星町514番地1	TEL(0166)21-7080 FAX(0166)21-7080
■札幌支店	〒003-0869 札幌市白石区川下2127番地4	TEL(011)875-3966 FAX(011)875-3971
■釧路支店	〒088-0621 釧路郡釧路町桂木5丁目15	TEL(0154)36-1790 FAX(0154)36-1844
■帯広支店	〒080-2460 帯広市西20条北2丁目27-10	TEL(0155)41-4101 FAX(0155)41-4105
■旭川支店	〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目63-636	TEL(0166)62-7575 FAX(0166)61-1715
■北見支店	〒099-0878 北見市東相内町174番地16	TEL(0157)36-3557 FAX(0157)36-3433
■千歳支店	〒066-0008 千歳市根志越2190-27	TEL(0123)26-4111 FAX(0123)26-4112
■千葉支店	〒262-0011 千葉県千葉市花見川区三角町16番2	TEL(043)258-4065 FAX(043)258-4025
■宇都宮支店	〒321-0932 栃木県宇都宮市平松本町362-6	TEL(028)636-1266 FAX(028)636-2675
■高崎支店	〒370-3523 群馬県高崎市福島町738番地1	TEL(027)373-7199 FAX(027)373-5583
■平塚支店	〒254-0018 神奈川県平塚市東真土4丁目2-69	TEL(0463)54-6484 FAX(0463)54-2430
■水戸営業所	〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡3660-15	TEL(029)291-1822 FAX(029)291-1825
■ダンネツ信州	〒399-0033 長野県松本市大字笹賀5130-1	TEL(0263)26-0811 FAX(0263)26-1016